

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



「生きる力」との出会い

ひろしま人間教育研究センター長 阿部好策

今ほどの学年でも、教科書の丸暗記ではなく、生活にいかせる「生きる力」としての学力が話題です。そこで『新しい学力づくり』の本を書こうとしたのですが、30 数年前のはずかしい体験がよみがえってきました。

私は 35 才ころに、「優れた教育」を求めて、様々な地域の教師が集う教育研究会の司会を引き受けました。そして 1985 年の長野県・恵那集会で、二つの妙な教育に出会ったのです。まず神戸の小学校教師だった岸本裕史さん（2006 年没）ら数名が「落ちこぼれ研究会」を名のり、「百ます計算」を発表しました。当時の落ちこぼれ対策は「わかる授業」を心がけるぐらいです。今も熱心な後継者がいる百ます計算は、上と左に 1～9 の数を書く表が基本で、穴埋め式の計算をさせます。数字を並び変えた練習プリントで「速く計算ができる・次第に正確にできる」ようにして、算数に強くなる対策でした。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| + | 3 | 9 | 2 | 4 | 5 |
| 9 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 8 | | | | | |

足し算
百ます

私は「学力をちゃんと身につけるには『わかる・できる学習』がいるということですね」とほめました。拍手もあり、興奮した私は、代表がいる控室でも百ますをほめたのです。急に座が白け、皆が沈黙しました。実は控室でもっと先を議論中！。百ますは結局、教科書の計算の暗記です。例えば同じ $1+1$ が水滴を重ねる実験では 1 だし、変動するドルの計算なら円計算もします。実生活の「計算の意味」でわかる内容を発展的に考えさせ、算数嫌いの子のわかる力も掘り起こす「わかることを生きる力につなげる学習」の議論があることに、私は後で気づくのです。

控室中央には坂元忠芳さん（当時、都立大教授）がいました。二つ目の発表の「恵那の教育」に関与して議論を導いた人です。恵那は 70 年代の性教育が有名です。例えば理科の「植物の発芽」で桜のメシベ、オシベ、受粉などを覚えても、「実」がなるドングリの木に花が咲くとは思わない人が多い。当然、思春期の子が知りたい男女の性は別モノです。恵那の教育は、理科の内容を動物の交尾や、脳の働きで独自のヒトの性を加えた内容に直し、愛と性、性の文化も考えさせます。教科書を子どもや地域の生活から発展的に見直しつつ、そこで学び、考えたことを学習ノートに綴らせています。

恵那では性以外にも、「生活」や「政治」の現状とつなげて、教科の授業を深めたようです。今はこの種の教科書をこえる学習を、総合的な学習で見ます。恵那の学習ノートは、総合の自己評価のポートフォリオだという人もいます。ただ現在は、教科の内容を見直さず、総合で体験学習を加えるだけが多いようです。教科書を子どもがわかりたい内容へと見直し、本音を書かせる学習ノートで「自分をわかる力」まで育む恵那の教育こそ、生きる力を育てる原点です。今年中に出す予定の著書ではその今日的課題も述べたいです。